

KUMADAI TSUSHIN

熊本通信

Vol.28
Apr.2008

特集

知と社会
Vol. 28

未来を生き抜く力

世界水準のIT教育環境



Kumamoto University

国立大学法人 熊本大学



熊本大学の約束(KU4U)

Kumamoto University For You

私たちは、熊本大学を開かれた心地よい環境の大学として、次の4つのことに全力を投入します。

Upgrade

未来を生き抜くプロフェッショナルの養成

Union

地域連携と社会貢献

Unique

新たな知的価値の創造

Universal

留学生教育と国際貢献

CONTENTS

1 新年度へ向けて 学長インタビュー

東アジアのアカデミック・ハブを目指して

4 知と社会 Vol.28

未来を生き抜く力 世界水準のIT教育環境

8 夢の実現 Act.16

進化する情報通信 触感や温もりさえも伝える技術へ

熊本大学大学院自然科学研究科 准教授 汐月 哲夫

10 地域とともに

「限界集落」 今、そこにある危機に立ち向かう

熊本大学政策創造研究教育センター 教授 上野 真也

12 卒業生を訪ねて

医者として、人として 学びの原点は学生時代に

日本赤十字社熊本健康管理センター名誉所長 小山 和作さん

14 国際交流

熊本大学を強く印象づけた 2つの国際フォーラム

16 熊大 INFORMATION

おすすめの一冊 熊本大学教育学部 准教授 袴田 和泉

CAMPUS 歴史さんぽ

表紙 TORI 材料(新聞紙、紙粘土、針金など)

作者/中村靖浩 NAKAMURA YASUHIRO

プロフィール：熊本県天草生まれ。熊本大学教育学部美術科卒業。ゲーム制作会社でグラフィックデザイナーとして7年勤務。現在、紙を使った立体作品を中心に制作、活動中。
<http://www1.newweb.ne.jp/wb/spankposs/>

コメント：今回の鳥は明確な種類がなく作りました。つくみなどの仲間かと思われます。今回で、2年間作品を提供させていただきました熊本通信のお仕事はおしまいです。お世話になりました。大学は僕のいた頃も変革期でしたが、時代の変化とともにどんな大学も社会に適用する力を持てるよう変化しています。熊本大学もこれから真価が問われていくのだと思います。この熊大通信も第三者に大学の内容を伝える重要なものの一つだと思うので、これからどう変わっていくのか楽しみです。





新年度へ
向けて

● 学長インタビュー

東アジアの アカデミック・ハブを 目指して

いよいよ平成 20 年度がスタートしました。

前年度より継続する取組みや、新たにスタートするプロジェクト、
そして、熊本大学が目指す将来像とは。

崎元達郎学長に、一問一答形式で語っていただきました。

飛躍の一年を振り返る

―平成19年度は、熊本大学にとってどのような一年でしたか。

確実な実績を積み上げ、地域に根ざした個性ある大学づくりにさらなる飛躍を遂げた一年でした。

―「地域に根ざした大学」としての取組みについては。

文部科学省が運用する競争的資金として活用される科学技術振興調整費によるプロジェクトに、本学から3件採択されています。その中の一つ「みなまた環境マイスター養成プログラム」が始まりました。水俣市の社会人・市民の方を対象に、環境・リサイクル教育や地域マネジメント教育を行い、水俣から世界へ、環境保全の大切さを発信していく人材（環境マイスター）を養成します。

―科学技術振興調整費による、ほか2件のプロジェクトとは。

一つは「地域連携によるキャリアパス環境整備」で、男女共同参画の事業として、女性研究者を増やすための支援に平成18年度から継続して取り組んでいます。もう一つ、平成19年度から始まったのが「挑戦的若手研

究者の自立支援人事制度改革」です。

挑戦的かつ独創的な研究発想を持った若手研究者が自由に研究する環境を整え、世界に通用する若手研究者の育成を目指しています。

―「情報化」に対する取組みは。

昨年度、eラーニング推進機構（P7参照）を設置しました。全学的な教育内容のデジタルコンテンツ化を推進し、平成20年度はこの機構の機能をさらにアクティブにしていきたいと考えています。

―研究・教育における環境整備も着々と進んでいるようですね。

国際的に卓越した教育研究拠点の形成を図る文部科学省の「21世紀COEプログラム」に採択されていた、発牛医学研究センター田賀哲也教授をリーダーとする「細胞系譜制御御研究教育ユニットの構築」が平成18年度で終了。新たに「細胞系譜制御御研究の国際的人材育成ユニット」が「グローバルCOEプログラム」に採択され、平成19年度から事業を開始しました。ここから世界をリードする若手研究者が育つことが期待されて

います。

また、21世紀COEプログラムに採択されていた、大学院自然科学研究科秋山秀典教授をリーダーとする「衝撃エネルギー科学の深化と応用」

研究・教育環境整備の

さらなる推進

―今年度、文系大学院が再編統合されたそうですが。

文学研究科（修士）、法学研究科（修士）、社会文化科学研究科（博士）を再編統合して、新たな「社会文化科学研究科（博士前期・後期課程）」を創設しました。文学研究科と法学研究科の学術研究というアカデミックな部分は保持し、実社会で活躍できる「プロフェッショナル」をも養成することが目的です。夜間コースやeラーニングを利用した勉強が可能なので、社会人も同研究科で学ぶことができます。

―もう一つ、新たに設置された大学院は。

「大学院保健学教育部」です。すでに看護師、検査技師、放射線技師等と

が昨年度で終了。環境、バイオ、医療などに大きく貢献するこの研究が、今年度のグローバルCOEプログラム採択を目指しています。

して現場で活躍している人にも学んでもらい、新しい知識を身につけ、さらに高いレベルの資格に挑戦するためのコースです。

また、教育学部と教育学研究科の改組について、今年度に計画の策定を目指しています。教育現場に求められる実践的資質能力の高い教員を養成できる学部・研究科をつくることが目標です。

―施設の整備も計画されていますね。

附属病院東病棟および医学部図書講義棟の新築と、附属小学校・中学校の改修、法文学部、教育学部棟の改修、本荘中地区の共用研究棟新築、こぼと保育園、留学生宿舍、黒髪南地区の食堂新築ほか、さまざまな新築策を予定しています。

「産学官連携の推進についてはいかがですか。」

平成18年度、独立行政法人科学技術振興機構（JST）による大型共同研究開発プロジェクトに、大学院自然科学研究科河村能人教授の「次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発」が採択されました。昨年度このプロジェクトで、コア研究室となる実験棟が落成しました。本学の土地に熊本県の予算で建物を建築、管理は（財）くまもとテクノ財団が行い、研究は河村教授のチームが進めます。独立行政法人になったからこそ可能になった取組みです。自動車部品への応用など、大きな可能性を秘めた基盤技術開発で、大変夢のある仕事だと考えています。

「財政強化については。」

今年度も、財政基盤の構築は大きな取組みの一つです。昨年度、本学の隆盛へのご支援を賜るための「熊本大学基金」を創設しました。平成20年度は、同基金の事業として、熊本大学の60年記念誌編纂事業への着手を計画しています。戦後の教育制度改革以来の大改革であった独立行政法人移行前後の経験と実績に重点を置いた記念誌となる予定です。

東アジアの ハブ大学を目指して

「昨年度は、ふたつのフォーラムが熊本で開催されました。」

昨年度は、「第5回熊本大学熊本フォーラム」および「環黄海産学官連携総（学）長フォーラム」（P14、15参照）を、地元熊本で開催しました。今年度は、インドネシアと日本の国交50周年であり、インドネシアではジャ

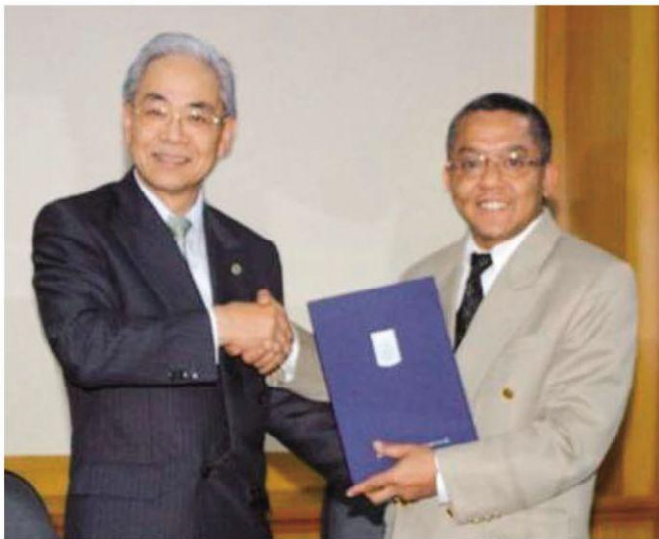
パン・イヤーとしてさまざまなイベントが行われます。その中の一つとして「第6回熊本大学国際フォーラム」をインドネシアで開催したいと考えています。

本学は独立行政法人国際協力機構（JICA）のコンサルタント資格を持っています。平成18年度、JICA

より受注した大型プロジェクト「スラバヤ工科大学情報技術高等人材育成計画」では、主にインドネシアにおける情報通信技術の高度な人材育成を目的としています。本年度が3年目となるため、開催が実現すれば、成果発表なども含めた画期的なフォーラムとなるでしょう。

「今後、熊本大学が目指す姿とは。」

私たちには、長い歴史と伝統の上に、営々と築いてきた数々の実績があります。競争的教育プログラムへの採択件数16件は、全国の国立大学と比較しても高く、本学の先生方の教育力の高さを示しています。また、「21世紀COEプログラム」「グローバルCOEプログラム」への採択も、本学が世界的に卓越した研究教育拠点であることの現われです。今後、本学が伝統と歴史を基礎に地域に根ざした教育拠点として発展し、さらなる国際化と情報化を遂げれば、「アジアに熊本大学あり」と言われる日は近いと信じています。



2007年、インドネシア・スラバヤ工科大学と大学間交流協定を締結

「さらなる国際化への道のは。」

国際化推進機構（仮称）の設置を計画してい

「特集」知と社会 Vol.28

未来を生き抜く力

世界水準のIT教育環境

インターネットの高速通信網でつながれた高度情報化社会。

ローカルに暮らしながらも、グローバルに考え、生きる力が必要とされている。

本学は、こうした時代と社会の要請に答え、最高のIT教育環境の整備を図り、自ら学び、考える人材の育成に取り組んでいる。

その取組みは文部科学省の教育GP※にも採択され、全国の大学から注目されている。

新入生を迎えるにあたり、本学のIT教育環境の今をレポートする。

まずはSOSEKで履修登録

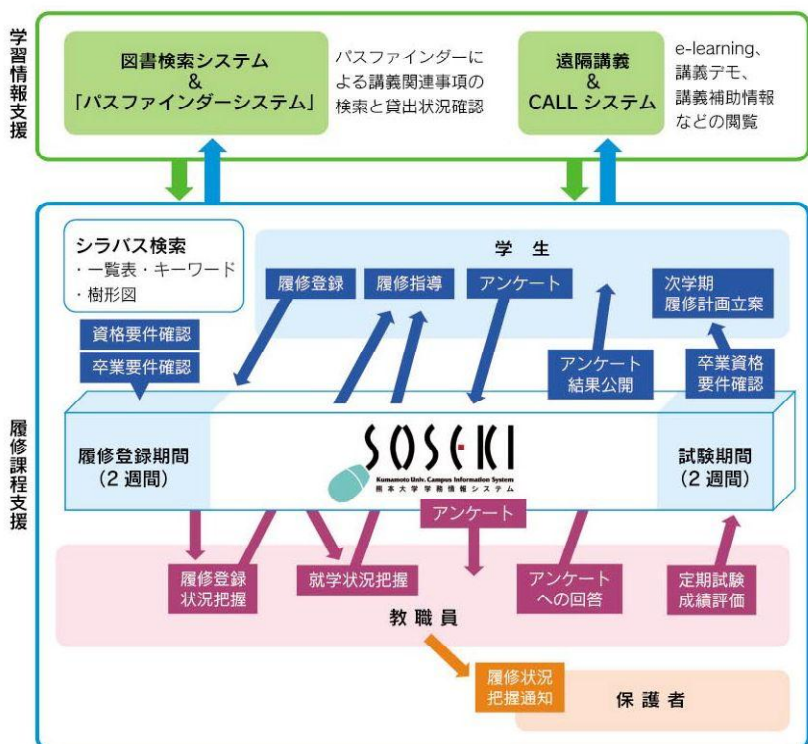
本学に入學すると、学生は全員、それぞれにユーザー名とパスワードが渡される。学生はこれを使って、学内の各所に設置された1300台を超える最新のパソコン端末を使い、本学独自の学務情報システム「SOSEK」で授業科目の履修登録を行う。

SOSEKは、本学の将来ビジョンにあるキーワード、Self-discovery（課題発見能力）、Open University（開

かれた大学）、Structural Flexibility（大学の柔構造）、Evaluation（点検・評価）、Kumamoto（くまもと）、Intelligent Campus（情報化キャンパス）の頭文字の組み合わせで、本学の前身・旧制第五高等学校の英語教師を務めた明治の文豪・夏目漱石（本名・金之助）教授の名前にちなんでいる。本学が独自に開発し、平成11年度から運用を開始。その後、他大学にも同様のシステムが導入される契機となった。

「わざわざ窓口に行かなくても、履修登録から図書を検索まで手軽にでき

※教育GP(Good Practice)は、大学における学生教育の質の向上を目指す特色のある優れた取組みや社会からのニーズの強い課題に対応した取組みを支援する文部科学省のプログラムで、特色GPや現代的GPなどがある。



「SOSEKI」とはコンピューターを使った学務情報システムの名称

て便利」という学生たち。履修科目についてシラバス（授業の大きな内容や計画）も、SOSEKIを使ってオンライン上で調べ、自ら履修計画を立てる。また、成績確認、進級や卒業、教員免許や各種資格を取るのに必要な単位の取得状況などを調べるときにも利用。それぞれにメールアドレスを与えられた学生は、ホームページを持つことができ、学内に整備された350もの基地局を経由した無線LANの利

用もできる。

IT教育環境の整備は、 大学教育改革の証

グローバル化の進展とともに、大学はいつそこの国際化や高度情報化が求められている。本学では、全学部で「情報基礎A・B」を1年生の必修科目としている。ここで、学生たちは少人数のクラスに別れ、週に1度の対面授業とeラーニングによって、情報機器やネットワークを使うために必要なスキルと知識を身に付ける。

しかし、本学におけるIT教育環境の整備は、単に最新の情報機器を導入し、学生たちにその操作の習熟を図ることだけを目的としているのではない。本学の教育・学生担当の理事でも



西山忠男理事・副学長

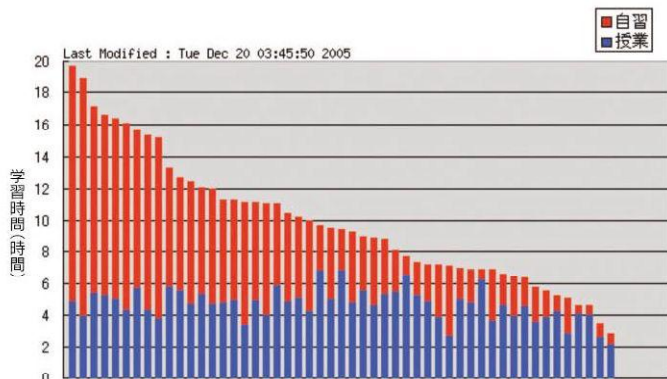
ある西山忠男副学長は「大切なことは、大学で、何をどう学ぶか。高度情報化キャンパスを実現することによって、私たちは情報機器を道具として使いこなし、自ら学び、考えることができる人材の育成をめざしているのです」と語る。高度情報化キャンパスの実現は、大学の大きな教育改革の流れの中の一つという位置づけ。授業改善のためのアンケートを実施する場としてもインターネットを活用している。

CALLで育む 自学自習と英語力

CALL (Computer-Assisted Language Learning) は、コンピュータによる語学学習支援システム。現在では多くの大学で導入されるようになったが、本学は

平成13年度、全国でもいち早く導入し、同16年度からは自宅など、学外からも学習できるようにした。個々の学生がそれぞれの学力に応じて、授業以外の時間にも、いつでもどこ

CALLを履修しているあるクラスの学生たちの学習時間をグラフ化したもの



棒グラフは個々の学生の授業時間と自習時間の合計を表したもの。学生は自分の学習時間を把握すると同時に、クラスの中での位置が分かり、学習の動機づけの一つになっている。



大学教育機能開発総合研究センターの高橋幸准教授

でも英語学習ができる。
CALLの授業を担当している大学
教育機能開発総合研究センターの高橋



「自分のペースで学習することができてよかったです」という工学部情報電気電子学科1年(当時)の鈴木祐希さん

幸准教授は、「英語によるコミュニケーション能力を身につけるのはもちろんですが、CALLでの学習を通して、学生には“学習の習慣づけ”と“学習の独り立ち”をして欲しいと思っています。私自身、社会に出て一番痛感したのが、タイムマネジメント（時間のやり繰り）の大切さ。ですから、学生には、『毎朝一時間は英語の勉強をするぞ！』とか、時間を決めて勉強するのがいい」とアドバイスしています。その習慣は将来にもきつと役立つと思うからです」

さらに、本学では、学生個々の学習

進捗率や授業と授業外の学習時間などをグラフ化する独自の学習支援システムを開発。学習時間が少し足りないと思われる学生には、授業担当教員が励ましの声をかけ、また学生自身が自分の学習時間を確認し、自習時間が増えるなどの効果も出ている。

eラーニングの専門家を eラーニングで育てる 日本初の大学院

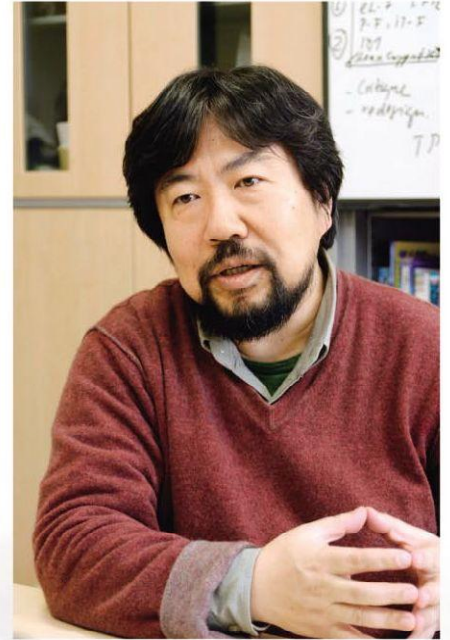
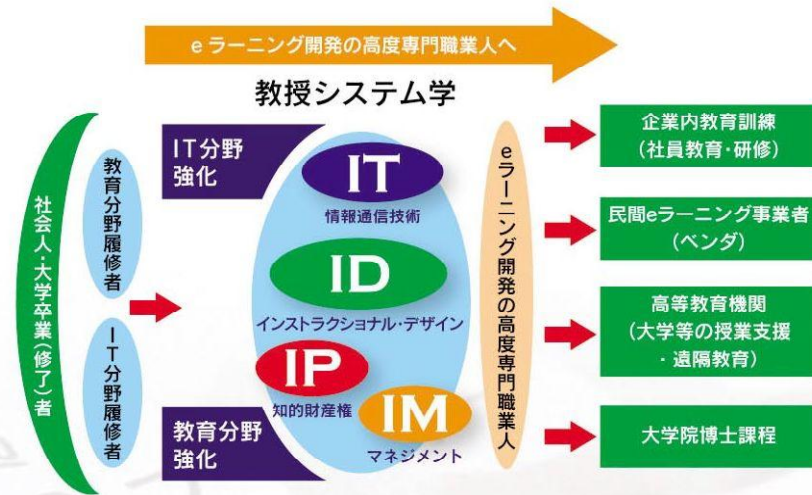
eラーニングの専門家をeラーニングで養成することを目的に、平成18年度に日本初のインターネット大学院として誕生した大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻（平成20年度から博士後期課程も設置）。

全国どこからでも、学習者の好きな時間に授業を受けられるとあって、北海道、東京、大阪、名古屋などに住む社会人たちが入学し、eラーニングの基礎から応用までを学んでいる。

「工学系のIT技術者養成の大学院は他にもありますが、eラーニングの教材づくりからeラーニングによる教育設計や指導までができる人材を養成するところは他にはありません。早くからWebCT (Web Course Tool) を導入して、教員が授業資料をイン

特集

SPECIAL EDITION



社会文化科学研究科の鈴木克明教授

ターネット上で提示したり、教員と学生が質疑応答をメールで交換するなど、日本の大学でトップクラスのIT教育を行ってきた本学ならではの取組みです」と語るのは、大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻の鈴木克明教授。

とはいえ、実際に学習している社会人学生にとっては、通学にかかる時間が不要なだけで、普通の大学院で学ぶのと同じだけの量と質の学習が必要。テレビやビデオなどで配信される講義を一方的に視聴するのではなく、インターネットならではの双方向性を活かして、掲示板でのバーチャルゼミや個別指導を受けながら、新しい分野の専門家としての活躍を目指している。

こうした本学の取組みは、学内外の期待も大きい。eラーニング関係のプロジェクトが文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色G P)」に平成15・16年度採択、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代G P)」に平成18年度採択されたのに続き、「IT時代の教育イノベーション育成プログラム(グローバル人材育成を主導できるeラーニング専門家の養成)」が、平成19年度に「大学院教育改革プログラム」に採択された。

eラーニングの可能性を 全学へ、そして社会へ

本学は平成19年度、総合情報基盤センターの教員を中心に、eラーニング推進機構を設立した。「当初、eラーニングの導入には『対面式授業が大切ではないか』と抵抗もありました。しかし、これまでの取組みの中で、eラーニングを取り入れることによって、学生がいつでも、何度でも授業内容を反復学習できる環境を整えたことで、対面式授業だけの時よりも試験の平均点が高くなったこともありました。学生の自学自習を促し、対面式授業では学生と教員がディスカッションする時間にあてるなど、大学教育のあり方をより深めていくことができるのではないかと考えられます」と同機構の機構長でもある西山副学長。

本学は、今後、同機構によって全学で教育内容のデジタルコンテンツ化を推進し、学生に効果的で達成度の高い教育を提供する。と同時に、関連システム・アプリケーションの管理・運営・構築、コンテンツの評価、公開著作権・使用権規定の制定などを行い、それを社会に還元していくことも目指している。

大学院自然科学研究科
情報電気電子工学専攻

准教授 汐月 哲夫

進化する情報通信 触感や温もりさえも伝える技術へ

情報通信技術の進化により、音楽や画像など大容量のデータも簡単に送ることができるようになりました。しかし、そこには「伝達遅延」という一瞬の闇が存在しています。その闇を切り開き、情報化社会のさらなる進化を目指しているのが、汐月哲夫准教授の研究です。

ものづくりに携わりたい

「高校生の頃からものづくりに携わる人間になりたいと思っていました」という汐月准教授。東京工業大学工学部に進学し、制御工学を専攻しました。「制御」というと分かりにくいかもしれませんがね。ロボットや自動車などがある仕組みで動く、それを「ふるまい」というのですが、制御工学はそのふるまいを設計してものをつくり動かす科学です」

汐月准教授が大学に進学した頃は、ちょうどテレビゲームが始めたとき。喫茶店に置かれたテレビゲームに夢中になる大学生の姿が話題になりました。汐月准教授もそんな大学生の一人だったのかもしれませんが、少し違っていたのは、そこに「ものづくりへ

の憧れ」があったこと。「例えば、ストロー一本にしたって、この太さ、この長さがいいとなるまでに相当な苦労があったと思うんです。ものを分解してみると、そこに作った人の心意気や知恵が見える気がします」。制御工学の中でも電子技術を応用したものづくりへと関心が向かいました。

伝達遅延がもたらす 制御の不安定

「リアルタイムの情報伝達と言われていますが、実は情報が伝わる間のほんの一瞬、そこには「伝達遅延」という現象が起こります。音楽や映像を一方通行で受け取るだけなら、それくらい遅れは気になりません。しかし、そのものを動かさなければならぬとす



(写真上・左) 高校生を対象にした「マジカル・スプーンによる飛行船の遠隔操作実験」に先立って行われた「第4回 MDD (model driven development: モデル駆動開発) ロボットチャレンジ」コンテストで、熊本大学の学生を中心としたチームは2位入賞を果たした。



PROFILE

汐月 哲夫(しおつき・てつお)

大分県出身。昭和 56 年東京工業大学工学部制御工学科卒業、同 58 年東京工業大学大学院理工学研究科制御工学専攻修士課程修了。熊本大学工学部助手を経て、現在熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻准教授。工学博士。

趣味：バイオリン演奏

ると問題です。この遅れをどう解消して、ふるまいを設計するのか。それが今、僕が取り組んでいるフィードバック制御の研究です」

そんな汐月准教授の研究を一般にも分かりやすくデモンストレーションしたのが、昨年の「マジカル・スプーン※」による飛行船の遠隔操作実験です。熊本県立小川工業高校の生徒たちが熊本大学の会場から、東京会場（日本科学未来館 東京）にある飛行船を遠隔操作する体験をしました。東京にいる高校生の指示を受け、熊本大学にいる高校生がスプーンの叩き方を変えることで、東京にある飛行船を前後左右に動かしました。このとき、インターネットを経由した情報の「伝達遅延」はわずか

なものでしたが、ネットワーク越しの意思疎通の難しさもあつてか、なかなか思うようには動かなかつた飛行船。参加した高校生たちは、飛行船操縦やコミュニケーションの難しさを感じながらも、インターネットや情報通信の仕組みを学習するのによい機会になったようです。

バーチャルからリアル『ドラえもん』に

「ネットワークの中でどれくらい伝達遅延が起きるのかを予め計算した上で、遠隔制御を可能にするソフトウェアをつくるモデル実験を始めています」。制御の不安定現象を解消するこ

とで、医療、福祉、教育、危険作業など、さまざまな分野の遠隔操作が可能になります。ネットワークの技術と制御の技術をつなぐ情報通信の融合。それが汐月准教授の進める「力覚情報通信」という新しいコミュニケーションの世界です。

「夢は、遠く離れていても、相手の体温の温かさを感じられる技術にすること。ボタンを押すだけで、実際に「指きりげんまん」するのと同じ感覚が持てるようにしたいですね」

それは「ドラえもんがポケットから出してくれるものをただ喜んで見ているだけではなく、実際につくってみよう」という発想。今、コンピュータの世界に求められているのは、バーチャル

でも、サイバースペースでもない。現実の世界で役に立つものを、ソフトウェアを使って作ることができる技術者なんです。また、技術者といえども、知らないことはたくさんある。知らないことを知るためにはコミュニケーションの力も大切。学生諸君には、例えばテレビ番組も、ただボンヤリと見るのではなく、アナウンサーがどう話しているのか分析したり、お笑い芸人の話を盗むような、そんな見方をしたいですね」

※ 教育システム情報学会と NPO 法人 組込ソフトウェア技術者・管理者育成研究会が共同で運営している体験的・情報処理の仕事みを学習できる教育プログラム



写真はいずれも熊本県芦北町
(写真上)人口減少・高齢化が進む中で守られている棚田
(写真下左)プロジェクト研究代表の山中進大学院社会文化科学研究科教授(当時)=右=と芦北町上原地区の都市農村交流の鬼塚一貞さん(左)。山中教授は同町に貴重な研究資料や蔵書約5,000冊を寄贈し、皆さんに喜ばれている。(写真下右)山焼きの様子

地域と
ともに

「限界集落」 今、そこにある危機に立ち向かう



上野眞也政策創造研究教育センター教授

人口の半数が65歳以上となり、共同体としての機能が困難となった集落を「限界集落」と呼んでいます。今年1月、九州地方整備局が実施した調査では、熊本県内の4,487集落中の205カ所がこの限界集落に該当し、うち5カ所は今後10年以内の消滅が予想されることが分かりました。限界集落という地域課題に「ソーシャル・キャピタル」という概念を用いて立ち向かう政策創造研究教育センターの上野眞也教授に話をうかがいました。

そこに住む人だけの問題ではない

「山があつて田畑があつて、小川にはめだかが泳いでいて。私たちが想像する日本の自然や田舎つて、実はずっと昔から人が手を入れ、道路や水路を管理し培ってきたものです」と、普段私たちが思い描く「里山の風景」について語る上野教授。平成17年、全国の国立大学に先駆けて設立したシンクタンク「熊本大学政策創造研究センター(当時)」

現・熊本大学政策創造研究教育センター」のプロジェクト研究で、山間地域など条件不利地域に見られる限界集落の問題に取り組んでいます。

「日本国土の約7割を占める中山間地域は、本来多くの食糧が生み出される場所です。なのに、過疎化や高齢化によって、田畑を耕す人がいなくなり、そのまま放棄されて荒地になってしまつてケースが増えています。荒地となつた土地を再び田畑に戻すのは大変です。荒地と私たちが求める「自然」は違いま



芦北町大岩で開かれた中山間地域政策研究フォーラム

研究の中で見つけた地域の力

す。荒地では、洪水対策も野生動物との共存もできません。今、最後の力を振り絞り、せめて現状維持をしようという気持ちで、本場に日本の農村、国土は衰退してしまっています。限界集落の抱える問題はそこに住む人々だけの問題ではないのです。

では、中山間地域の限界集落の問題を解決するにはどうしたらいいのでしょうか。上野教授は、本学の山中進大学院社会科学文化科学研究科教



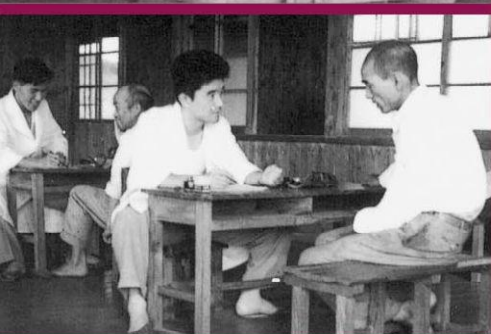
廃校になった芦北町の旧大岩小学校校舎。地区の生涯学習センターとして活用され、「熊本大学・芦北町中山間総合政策研究推進室」もここに置かれている。

ソーシャル・キャピタルを強めるために

研究が縁となつて、本学と芦北町は連携協定を結び、本学の研究者や学生が第三者の視点で、芦北町の中山間地域にある集落の「むらづくり協議会」にも参加し、地域とともにその未来と一緒に考えています。「そこで初めて田んぼに入る学生もいます。学生にとって最高の実体験をさせてもらっているし、現地のおじいちゃん・おばあちゃんとのふれあいは相互にとってプラスです」という上野教授。

地域の人々が集まって話し合いをするような習慣がないところでは、ワークショップを行つて、地域の人たちの連帯意識を生み出し、地域全体のさまざまな事業を軌道に乗せる。また、地域や家庭での各種産物を、道の駅や物産館の流通にのせることで、社会参加と現金収入という二つの喜びを知つてもらうなど、町づくりへとつながる研究活動を行っています。

「地域の人々に小さな成功体験を積み重ねてもらつて、社会参加を負擔ではなく喜びに変え、中山間地域の生活も環境も守りたいのです。大学の「知」が地域の課題に真正面から取り組んでいる事例です。」



(写真上)熊本学生セツルメントの初代会長となった頃

(写真下)農村に出向き、小学校などを借りて、地域住民の健康状態などを問診した。

PROFILE

小山 和作(こやま・わさく)

1932年長崎県生まれ。熊本大学医学部を卒業後、同大第二内科講師を経て、1974年(財)熊本県健康管理協会専務理事、1978年日本赤十字社熊本健康管理センター所長、2003年同名誉所長。日本人間ドック学会理事、予防医学事業中央会理事など役職多数。



日本赤十字社熊本健康管理センター名誉所長 小山 和作 さん

長年、日本赤十字社熊本健康管理センター所長を務め、各種検診の実践や健康指導を通して、予防医学の礎を築いてきた小山先生。常に、地域と時代に密着した医療を考え、実践してきた、その原点は学生時代にありました。

医者として、人として 学びの原点は学生時代に

生きることを模索した 激動の学生時代

私が高校を卒業したのは昭和26年。その頃の学校制度は今と違って、まず2年間大学で教養を学んでから、さらに医学部を受験するシステムでした。九州大学教養部に入学すると、左翼の学生たちがピラ配布やバリケードによる建物占拠などをしていて、のんびり学習するような風潮ではなく、私も少なからずその影響を受けました。

教養部修了後、進路を悩んだ私は、兄の勧めで東京に出て、当時の総理府恩給局で、働きました。やりがいもあり充実していたものの、次第に「このままでいいのか」と自分自身に疑問を抱くようになって、再び勉学の道を選択することにしました。恩給局の3年間は、自分に気付きを与えてくれた「大切な人生の寄り道」だったと感じています。

人格を育てた さまざまな課外活動

その後、「のんびりしていて、校風がいいよ」という先輩の勧めで熊本大学医学部に入ったのが昭和31年。入学後、理不尽に感じた国の授業料値上げに対してクラス80名の意見をまとめて大学と交渉し、撤回してもらいました。

当時、熊本城の二の丸にあった自治寮の寮長も務め、授業以外でもいろんなことをしました。気の合う仲間七人でつくったのが「七人の侍」というグループ。一緒に遊び、語り、学ぶ中で「自分たちは何のために医者になるんだろう。どんな医者になるといいのか」という哲学的な悩みを共有するようになりました。だったら、自分たちの勉強の場を地域に広めよう、地域の人々はどんな医者が欲しいのか問いかけてよと「熊本学生セツルメント※」を立ち上げ、初代会長になりました。

これには熊本大学だけじゃなく県内の看護学校や女子大学の学生なども多数参加しました。このため、発会式で、当時の恩師から「熊本に本当の総合大学ができたようだ」と祝詞をいただいたほどでした。

他県のセツルメントの中には、政治的な色彩の濃いところもありましたが、私たちが取り組んだのは、今でいうボランティアの先駆けのようなものでした。

当時、熊本市内でも特に住宅整備が行き届いていなかった青葉地区に足げく通って「セツルハウス」と呼ぶ拠点を作らせてもらい、住民の方と一緒に溝の清掃をしたり、学校が終わってから健康相談を受けたり。急に具合が悪

くなった人を医師免許がある教授を呼び出して、わざわざ診てもらったりもしました。溶け込むまでに時間もかかったけど、地域の人から本当にいろいろなことを感じて肌で学ばせてもらいました。セツルメントみたいなことをしろとは言わないけど、今の学生には人生論を語る機会が少ないのが残念ですね。

病気になるための 医療がしたい

卒業後は医学部で教鞭を執りながら、長期休暇にはセツル時代の仲間と無医村に足を運び、健康診断などを行いました。この「農村セツルメント」は、後に「熊本農村医学研究会」の発足へつながります。

そこで見えてきたのが、農業従事者の芳しくない健康状態。食生活や健康管理に対する知識不足、農薬中毒に農村婦人の重度の貧血など。農村医学を追求する中で、病気になるための健康になるための施設や情報が必要だ。検診や早期発見が不可欠だと思っようになりました。

生活に隠れた病気を発見する”新しい医療のあり方を追求したいと、大学を退職し、当時まだ確立していなかった「予防医学」の道に進むことを決心し

ました。準備期間を経て昭和47年に「財団法人熊本県健康管理協会」、昭和53年には「日赤熊本県支部診療所健康管理センター」を設立することができました。

自分の人生観を見つけよう

私は昨年まで厚生労働省の「標準的な健診・保健指導のあり方に関する検討会」で構成員をしていました。やっと時代が私たちに追いついてきたという感じ。1人の医者を育てるのにかかる年数は最低8年。だったら私たちは10年先の医療を見越しておかなければならないと思っています。

学校の勉強はあまりしなかったけど、学生時代のさまざまな課外活動が社会に出てから生きたと思います。大切なのは勉強の量ではない。やる気や自分で勉強する意欲なんです。

人としてどのように生きるのか、自分たちで人生観を磨き叩き上げていく。若い皆さんには学生時代の数年間を、人生を考える大きな機会にして欲しいですね。

※セツルメントとは、19世紀後半、英国のケンブリッジ大学などで始まった社会運動。日本では大正時代の終わりごろ、当時の東京帝国大学で始まった。



環黄海総(学)長フォーラム本会議の様子

11月25
~27日

**第3回環黄海産学官連携
大学総(学)長フォーラム**

International exchange

国際交流



**熊本大学を強く印象づけた
2つの国際フォーラム**

昨年11月、熊本を舞台に、熊本大学が主導・主催した2つの国際フォーラムが相次いで開催されました。一つは、「第3回環黄海産学官連携大学総(学)長フォーラム」。もう一つが「第5回熊本大学 熊本フォーラム」です。教育・研究のほか、産学官連携などをテーマに、内外の研究者や経済人が活発に意見交換し、熊本大学の存在感をアピールする好機となりました。

このフォーラムは、九州経済産業局・韓国産業資源部(MOCIE)・中国商務部(MOFCOM)が主催する「環黄海経済・技術交流会議」に併設する形で、2005年から始まりました。韓国大田広域市、中国日照市に続いて、2007年は日本での開催地として熊本市が選ばれたため、本学が開催校を務めました。九州の15大学60名、中国から9大学25名、韓国から10大学と1協議会25名が参加しました。

初日の25日は歓迎レセプション、2日目の26日は今回から導入された分科会、そして3日目の27日には学長フォーラム本会議や経済・技術交流会議本会議などが行われ、環黄海三国間の教育・研究の連携、産学連携に関して活発に意見が交換されました。

本学の崎元達郎学長は、以前からEU(欧州連合)のように、大学間交流を促進し、学士・修士等の共通学位システムを導入などの改革を推進すべきたと主張してきました。今回のフォーラムでは開催校の学長として「環黄海における人材育成は、東アジアが持続的に発展していくために極めて重要であり、講義の英語化や情報技術を活用した教育が3カ国の大学に広まれば、さらに質の高い連携が可能になる」と提言、国際的な人材育成ネットワークの拠点化を目指す本学の取組みを詳しく紹介しました。

全体討議では、3カ国での学生・教員の相互交流を進めるため、政府の財政的な援助を得る可能性について意見交換を行い、EUをモデルにした共同

教育プログラムの構築などを視野に入れて研究を進めることで一致しました。

11月29
~30日

**第5回熊本大学
熊本フォーラム**

前述のフォーラムに引き続き、本学主催の国際フォーラムを熊本城築城400年祭でわく熊本で開催しました。本フォーラムは、本学の教育・研究の取組みを広く紹介し、大学・研究機関、企業、行政機関との交流を推進することを目的に平成15年度から国内外で毎年行っています。東京、大阪、中国上海、韓国大田と続き、地元で初めての開催となった今回のフォーラムには、約250名が参加しました。

初日の29日にはキャンパスツアーや

国際交流 Report 19年12月~20年2月

12月4日 / 留学生交流パーティを開催

大学の留学生が学内・学外関係者約300名と親睦を深めました。



11日 / 中国陝西省大学管理運営幹部 30 名来学

12日 / 台湾国立連合大学学長一行来学

15日 / ユネスコ - 熊本大学生命倫理会議 2007 を開催 (16日まで)

生命倫理における「自己決定」をテーマに研究発表が行われ、研究者・学生等約50名が参加しました。

16日 / 熊本地区留学生シンポジウムを開催

県内6校から12カ国27名の留学生が発表を行い、約130名が来場しました。

17日 / インドネシア・スラバヤ工科大学来学

18日 / 熊本大学 GP 国際ワークショップ 2007 を開催

フィンランド、スロバキア、インドネシア、日本のeラーニング研究者6名を招き議論が行われ、44名が参加しました。

1月16日 / グローバルCOE 国際シンポジウムを開催

文部科学省により採択された生命科学系教育研究拠点「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」の国際シンポジウムが開催され、約180名が参加がしました。

2月9日 / 日本留学フェア (インドネシア・スラバヤ) に参加



13日 / ドイツ総領事ゲロルト・アメルンク氏来学

16日 / 留学生実地見学旅行(島原市、雲仙市、長崎市)

約100名の本学留学生が歴史・文化の理解を深めました。



19日 / JSPS (日本学術振興会) 「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」の感染症国際シンポジウムをタイで開催

日本、中国、タイ、エジプトから約200名の研究者が参加しました。この事業は外務省「日本・エジプト科学技術年」事業の一つとして紹介されました。

27日 / 日独国際ワークショップ「日本とドイツの戦後史」を開催(28日まで)

ドイツから3名の日本研究者を招待し、日独の戦後史について日本語で研究発表・議論を行いました。2日間でのべ約70名が参加しました。

第3回環黄海産学官連携大学総(学)長フォーラム
<http://www.ysr-forum.com/>

第5回熊本大学熊本フォーラム
<http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/enents/forum2007/>

本学の教育活動紹介や学生の活動報告、翌30日には、元総合科学技術会議議員で東レ名誉会長の前田勝之助氏(本学工学部卒業)の特別講演やグローバルCOEプログラムに採択された本学の「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」などの紹介がありました。

前田氏は、「わが国の科学技術政策と大学の役割」と題し、「科学技術創造立国を担う人材育成が重要。九州・沖縄地区の国立大学がそれぞれの得意分野をいかす形で統合し、教育・経営基盤の強化を図るべきである」と語りました。

前述の大学総(学)長フォーラムから引き続きに参加した中国、韓国の四大学の総(学)長からは「日本企業との共同研究の橋渡し役を」大学院レベルで共同カリキュラムをつくり、国際的



熊本フォーラムでは学生たちの発表も行われた。写真は「よしかかとへこむかべ」というユニークな研究について説明する学生

な上級教育コースを開発したい」「工学だけでなく、他の分野でも協力推進を」などの期待が寄せられました。また、関係団体等から「熊本大学に期待するこ

と」として、「時代を先取りした環境・エネルギー学部やサービス学部の設置を」「地場産業へ人材を供給して欲しい」「先端技術を活用した基盤産業掘り起こしのための連携強化が必要では」などの要望がありました。

熊本フォーラム実行委員長を務めた谷口功工学部長は「日本経済界の重鎮である前田氏の講演は、熊本という地域を越えて日本の教育や産業を考える良い機会になりました。特に今回は、地元の人や学生の保護者にも熊本大学を知ってもらい、将来にわたって本学の応援団になっていただくことも目的の一つでした。そういう意味で、地元の方も多数参加されたのでよかったです」と地元での開催効果に言及。また「これから各国の政財界を担っていく

若い人材の育成を熊本大学が行うことが、長い目で見た周辺諸国との友好関係につながります。2008年はジャパン・イヤーのイベントが展開されるインドネシアで開催し、熊本大学への学生誘致も図ります」と意欲的に話しました。

2つの国際フォーラムによって、アジアの産学官交流を草の根レベルで推進する素地が固まり、本学のアジアにおける存在感が増しました。特に、全国の大学に先駆けて行っている本学独自の国際フォーラムの実績から、中国や韓国で本学の認知度が高まり、中国・長春市からフォーラム開催の要望が届くなどの反響が出ています。

お申し込み・お問い合わせ先

熊本大学研究・国際部社会連携課

TEL : 096-342-3121 FAX : 096-342-3239

E-mail : sos-tiiki@jimmu.kumamoto-u.ac.jp

URL : http://www.kumamoto-u.ac.jp

講座名	内 容	受付期間	開講期間	会 場	対象者(募集人数)	受講料
陶芸教室 一土と親しみ、つくる 喜びを求めて一	ものづくりを通した生涯学習の場として、一般社会人や障害児(者)を対象に、陶芸の基本的な知識や技能の習得を図ります。	4/14(月)～5/2(金)	5/17(土)～11/29(土) (全14回)	教育学部附属 特別支援学校 陶芸教室 (黒髪地区)	一般社会人、 障害児(者) (15名)	10,200円 + 教材費 (5,000円 程度)
ハーンと漱石	五高記念館を使用して、熊本と熊本大学にゆかりの深いラフカディオ・ハーン(小泉八雲)と夏目漱石について、その生涯を知るとともに熊本ゆかりの作品を読み、解説します。	4/14(月)～5/23(金)	6/14(土)～7/12(土) (全5回)	五高記念館 (黒髪北地区)	一般社会人、 その他 (大学生も可) (25名)	6,200円
ワーグナー芸術 への招待	ワーグナーのオペラ「さまよえるオランダ人」と「タンホイザー」を大型スクリーンで鑑賞し、文学的・音楽的解説をします。	4/14(月)～5/30(金)	6/21(土)～9/6(土) (全12回)	大学教育機能開発 総合研究センター (黒髪北地区)	一般社会人、 大学生、 高校生 (20名)	9,200円
陸上競技教室 一早く走る秘密一	大学が有する高いレベルの技術や知識を生かした講座です。子どもたちには「速く走る秘密」を楽しみながら体験、理解してもらいます。指導者には、子どもたちへの具体的な指導場面を通して、指導計画・指導技術・指導法を公開し、陸上競技の指導能力の向上を図ります。	4/14(月)～6/20(金)	7/13(日)～9/6(土) (全8回)	熊本大学武夫原グラウンド (陸上競技場) (黒髪北地区) ※雨天時は黒髪地区体育館	小・中学生 (30名程度) クラブ指導者・ 教員 (10名程度)	8,200円 + 別途費用 (保険料・ 大会参加費)
映画芸術を 楽しく味わう	映画110年の歴史の中で際立った傾向や名作を取り上げ、映画芸術の奥深さや新しさを学ぶとともに、映画で使われたカントリー音楽の実演を楽しみます。	4/14(月)～9/19(金)	10/11(土)～11/15(土) (全5回)	理学部 C-122教室 (黒髪南地区)	一般社会人、 大学生、 高校生 (25名)	7,200円
現代ドイツへの いざない	ドイツは環境先進国として知られ、赤ちゃんポストを世界に先駆けて実施しています。本講座は、文化や社会政策などさまざまな視点でドイツを紹介し、ドイツについての国際理解と大学の教育・研究への理解を深めていただくことを目的に開催します。	4/14(月)～10/3(金)	10/25(土)～12/6(土)	大学教育機能開発 総合研究センター E-303教室 (黒髪北地区)	一般社会人、 大学生、 高校生 (30名)	6,200円

EVENT 掲示板

薬学教育部附属薬用植物園の催し

①薬用植物観察会

開催月の薬用植物、身近な植物の観察やお話をします。

■開催日時：毎月第1土曜日 午前11時～午後1時

②初級漢方とハーブ

“やさしい漢方薬”の本を使って、よく用いられる漢方薬や身近なハーブをわかりやすく解説します。

■開催日時：毎月第4日曜日 午後7時半～9時

③「傷寒論」勉強会

傷寒論の本をゆつくり読みながら、内容をわかりやすく解説します。

■開催日時：毎月第2木曜日 午後7時半～9時

■開催会場：熊本大学 薬用植物園 (②③は園内管理棟2階)

■参加対象者：どなたでも

■事前申込：不要(都合により変更があるので、事前に申し込んでいただく方がいいです)

■参加費：100円(資料代)

■問い合わせ先：大学院薬学教育部附属薬用植物園 矢原正治

TEL・FAX：096-371-4381

E-mail：yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp

文学部考古学研究室学術会議講演会 中国福建省の考古学

本研究室と共同研究を行っている福建博物院長等を講師に招き、福建の漢代や宋元代の話をしていただきます。

■開催日時：平成20年5月16日(金) 午後6時～8時
■開催会場：熊本大学文法学部棟A2教室
■参加対象者：どなたでも(講演は通訳あり)
■事前申込：不要 ■参加費：資料代(実費)
■問い合わせ先：文学部考古学研究室 木下尚子
TEL：096-342-2446

NPO法人

廃棄物再資源化研究会活動成果報告会

県内で発生する産業廃棄物を再資源化したリサイクル資材の開発について、研究成果発表や講演、成果品の展示を行います。

■開催日時：平成20年5月23日(金) 午後1時～5時
■開催会場：熊本大学工学部百年記念館
■参加対象者：どなたでも
■事前申込：不要 ■参加費：無料
■問い合わせ先：大学院自然科学研究科 村上聖
TEL：096-342-3553

平成20年度 熊本大学公開講座 募集一覧

講座名	内 容	受付期間	開講期間	会 場	対象者(募集人数)	受講料
教師が使える カウンセリング講座	子どもの心理と発達課題等についての理解を深め、心理・教育相談の実施に必要なカウンセリングや心理教育法(ソーシャルスキル教育や構成的グループエンカウンター等)の知識や技法を研修します。	4/14(月)~5/16(金)	6/7(土)、10/11(土)、 H21年2/7(土)	くすの木会館 レセプションルーム (黒髪北地区)	教師、保育士等、 一般社会人で 教育カウンセリングの学習者 (30名)	9,900円
リーダーシップ・ トレーニング (アドバンス)	専門職業人を対象に、組織マネジメントのあり方とリーダーシップに関する理論的、実践的スキルの改善・向上を図ります。	4/14(月)~6/10(火)	7/3(木)、7/4(金)、 10/3(金)	キャンパス イノベーションセンター (東京都港区)	一般社会人 (組織・団体の リーダー) (25名)	9,900円 + 教材費(未定)
リーダーシップ・ トレーニング	一般社会人を対象に、リーダーシップの改善・向上のためのトレーニングをグループワーク中心に実施します。	4/14(月)~8/5(火)	8/27(水)、8/28(木)、 11/27(木)	教育学部附属教育 実践総合センター (京町地区)	一般社会人 (組織・団体の リーダー) (30名)	8,200円 + 教材費(未定)
先生のための 「食育」講座 一各分野で活躍する 食育に携わる方々の ために一	学校などで食育を推進する方を対象に、理論と実践の両面から食育を研修します。	4/14(月)~7/29(火)	8/20(水)~8/21(木)	大学教育機能開発 総合研究センター F棟(黒髪北地区)	幼・小・中・高 等学校教職員、 特別支援学校教 職員、保健師、保 育士、栄養士、各 分野で食育に携 わる方、専門職 業人を志す方 (30名)	8,700円
看護職者のための リフレッシュ講座 一やる気を生み出す 研修の理論と実際一	看護職として働く方が生きいきと仕事を続けていく力を生み出すためのエンパワメントの理論と実際を学び、同理論についての研修の企画・運営ができる人材の育成を図ります。	4/14(月)~8/29(金)	9/20(土)~9/21(日)	医学部保健学科E棟 (本荘・九品寺地区)	看護師、 保健師、 助産師 (30名)	8,700円 + 教材費 (300円 程度)
看護診断セミナー NANDA-NOC-NIC のリンケージ	質の高い看護を提供するために、患者に適した看護診断、看護介入、看護成果のリンケージを学習します。	4/14(月)~9/5(金)	9/27(土)~9/28(日)	医学部保健学科E棟 (本荘・九品寺地区)	看護職、 看護教員 (30名)	8,700円
看護倫理セミナー 倫理原則と看護実践	看護職に関する倫理の諸問題を検討し、看護職をめぐる倫理的ジレンマとその対応について学習します。	4/14(月)~10/24(金)	11/15(土)~11/16(日)	医学部保健学科E棟 (本荘・九品寺地区)	看護職、 看護教員 (30名)	8,700円
理論をもとにした 看護教育・看護研修 デザイン 一インストラクショナル・ デザインを活かして 研修案・授業案を創る一	インストラクショナル・デザインの理論をもとにした看護教育デザインを学び、より効果的・効率的・魅力的な研修・授業案をつくりまします。	4/14(月)~11/21(金)	12/13(土)~12/14(日)	医学部保健学科E棟 (本荘・九品寺地区)	看護職、 看護教員 (20名)	9,900円
健康で幸せな おもてなしを考えよう 一ホスピタリティの ためのヘルスプロモーション・ マネジメント入門一	地域の健康や観光等を考える時、満足感と幸福感のサービスを利用者にいかにお届けするか。その答をホスピタリティやQOL、ヘルスプロモーションなどをキーワードにして一緒に考えましょう。	4/14(月)~8/8(金)	9/20(土)~11/29(日) (全6回)	医学部基礎研究棟1階 修士セミナー室 (本荘・九品寺地区)	一般社会人、 大学院生、 大学生 (30名)	9,900円
くらしの中の 生命科学	DNA鑑定やクローン技術、放射線など、私たちの健康や毎日のくらしに密接に関係しているも、分りにくい生命科学のさまざまなトピックスを、生命資源研究・支援センターのスタッフが分かりやすく紹介します。	4/14(月)~8/29(金)	9/20(土)~10/4(土) (全3回)	生命資源研究・ 支援センター RIC/GTC棟6階 602講義室 (本荘・九品寺地区)	一般社会人 (20名)	6,200円
自治体経営の 理念と手法	地方分権時代の今、自治体は自立した経営とそれを担う政策立案能力や経営感覚を身につけた人材の育成が求められています。本講座は、自治体職員等が地域課題を解決するための政策形成能力向上への基礎知識を習得することを目的に開催します。	4/14(月)~9/19(金)	10/11(土)、 10/25(土)、 11/8(土)	政策創造研究教育 センター4階 会議室 (黒髪南地区)	自治体職員等 公共政策に携 わる方、公共政 策に関心があ る市民・県民 (20名)	7,500円 + 教材費 (2,200円 程度)

平成19年度 学生表彰



団体名	大会等名	種目等名	成績
柔道部	第49回全国国立大学柔道優勝大会	男子団体	3位入賞
空手道部	第29回全国国立大学空手道大会	女子団体 組手の部	準優勝
アーチェリー部	第31回九州学生アーチェリー王座決定戦	男子団体	優勝

氏名	所属	大会等名	種目等名	成績	
					氏名
矢野 正彦	工学部	4年次	第43回全九州春季学生競技ダンス大会	タンゴ・フォックス2種目	優勝
大友 貴恵	文学部	4年次	第43回全九州秋季学生競技ダンス大会	タンゴ・フォックス2種目	優勝
境 康太郎	工学部	4年次	第43回全九州春季学生競技ダンス大会	パソ種目	優勝
大坪 正代	法学部	3年次	第43回全九州秋季学生競技ダンス大会	パソ種目	優勝
新井 優斗	工学部	4年次	第43回全九州春季学生競技ダンス大会	ワルツ・クイック2種目	優勝
			第43回全九州秋季学生競技ダンス大会	ワルツ・クイック2種目	優勝
田宮 彰子	薬学部	3年次	第36回全九州学生競技ダンス選手権大会	ワルツ・タンゴ・フォックス・クイック4種目	優勝
岩本 慎一郎	教育学部	4年次	第24回ユニバーシアード競技大会	男子 100m 男子 4×100mR	出場 5位入賞
			第76回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子 100m	2位入賞
			第62回九州陸上競技選手権大会	男子 100m	優勝
中尾 有紗	教育学部	2年次	第62回九州陸上競技選手権大会	女子 三段跳	優勝
			第35回九州学生陸上競技選手権大会	女子 三段跳	優勝
野村 みや	教育学部	3年次	第57回九州地区大学体育大会陸上競技大会	女子 800m	優勝
家入 真理子	教育学部	3年次	第35回九州学生陸上競技選手権大会	女子 100m	優勝
堤 詩織	教育学部	1年次	第35回九州学生陸上競技選手権大会	女子 800m	優勝
松本 宇生	工学部	3年次	第9回世界テコンドーフェスティバル&マレーシアオープン	フェザー級	8位入賞
辻 裕貴	法学部	3年次	第9回世界テコンドーフェスティバル&マレーシアオープン	バンタム級	出場
勝 裕信	教育学部	1年次	第29回全国国立大学空手道大会	男子 個人形	優勝
岡村 良美	教育学研究科	1年次	第62回熊本県美術協会展	彫塑	県美大賞

学生がつくった「アカリ」で「まち」に春の彩り

熊本市の上通並木坂にある工学部の「まちなか工房」は、学生の「ものづくり」を地域の「まちづくり」に生かそうと、「アカリの道しるべ春彩」を催しました。春の彩りをテーマに学生が製作した19基の「アカリ」のオブジェを今年2月、上乃裏通りの飲食店や洋服店の店頭で約3週間飾りました。



このオブジェは、発光ダイオード(LED)を使ってランタン風に表現したもので、建築学科の学生が器の設計や製作を、情報電気電子工学科の学生がLEDの明るさや点滅時間などを制御するマイコンチップのプログラミングや製作をそれぞれ担当しました。

辺りが暗くなると、発光ダイオードのやさしい光の色が赤、青、緑、紫など刻一刻と移り変わり、道行く人たちの目を楽せました。学生たちにとっては、学科や研究分野を超えて協同したものづくりの経験としても、有意義な取組みとなりました。

「韓国語・熊本大会」で最優秀賞

駐日大韓民国大使館韓国文化院と熊本大会実行委員会が、昨年12月に共催した



「話してみよう韓国語・熊本大会」で、韓国語を学ぶ瀧野満里さん(教育学部2年)と湯貫小夜さん(工学部2年)のペアが最優秀賞を受賞しました。課題の台本を暗記し、二人一組で韓国語の発音や表現力を競う「スキット」部門に出場した瀧野さん・湯貫さんのペアは、台詞に独自のアレンジを加えて歌や踊りを披露するなど、その演技力でも高い評価を受けました。



教育学部准教授
(ピアニスト)

袴田 和泉

この本は、対談という形を通して

(各項目の最初に、質問者である伊藤勝彦氏の問いが投げかけられているという体裁を採る)、一人の哲学者が
いかに生きてきたかという自己の精神史を語ったものです。そしてその
生き方そのものが、独自の思想として結実していった様を読者に提示することにより、森有正の思想への理解を深めてもらいたいとの意図のもとに出された本です。

森有正は、1950年に戦後初のフランス政府招へい留学生の一人として、パリに赴きます。1952年の早春のある日、彼自身の『内なる促し』によって、日本における学者としての地位も生活もすべて投げ打ち、異郷の地で、その思索生活へと入ってゆくのです。

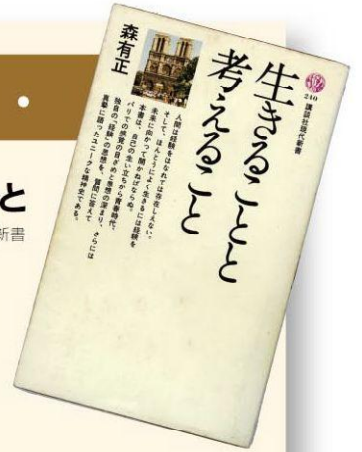
この書は、I私という人間、IIパリでの目ざめ、III個と普遍、IV

生きることと考えること

森有正著 講談社現代新書

経験と体験、Vフランスと日本、VI世界と私、VII芸術について、VIII「生きること」と「考えること」、IXほんとうの生き方、の九つの大きな項目に分けられています。これらが語られた時代は、すでに数十年も前のことではありますが、そこに内包されている問題点は、今この時代にも共通するものが多々あり、改めて読み返してみても新鮮な感動を覚えます。

人間経験というものに人が目ざめてくるとき、絶対に他人がとってかわることのできない、その自分の経験が自分なのだという出発点に立ち、自分の感覚と理性と意思をできるだけ働かせて自分の考えを築きあげていくこと、自分の「経験」を自覚的に確立することの重要性が深く心に残ります。



CAMPUS 歴史さんぽ

薬園由来の碑

肥後のお殿様が慈しんだ
薬草がキャンパスに

肥後細川藩の薬草園「蕃慈園」が明治23(1890)年に廃園となった際、植えられていた薬木・薬草150余種が当時の旧制第五高等学校に寄付されたのを記念して建てられました。その薬木・薬草の一部、モクゲンジ、テンダイウヤク、サンシュユ、サンザシ、ニンジンボクなどは、現在の薬学部キャンパス(大江地区)にある薬用植物園に移されて、今も大切に育てられています。薬用植物園の見学は、事前に申し込み(TEL:096-371-4381)をすれば、自由にできます。



黒髪キャンパスにある「薬園由来の碑」



蕃慈園由来のモクゲンジ。今も、大江・薬学部キャンパスの薬用植物園で育てられている。

五高記念館に「熊本大学歴史散策マップ」が置いてあります。

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

卒業生、在学生の保護者、名誉教授の方々をはじめとした皆様から、平成20年2月29日現在で、個人589名、法人・団体等6社の方々から総額約3,670万円のご寄附をいただきました。また、熊本大学振興会から約1億2,000万円のご寄附をいただいております。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。ご寄附をいただきました方々すべての皆様へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。公開不可のご寄附者につきましては掲載しておりません。

また、ご寄附者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話：096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標金額は10億円となっております。皆様の一層のご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。)

300万円	崎元 達郎	長野 吉彰						
200万円	立川 逸郎	金剛株式会社						
100万円	清原 英二	島田 廉夫	菅原 勝彦					
50万円	高橋 誠一							
30万円	石見 敏行							
25万円	中村 良三							
20万円	岡部 紘明	菊池 健	佐藤 静一	志賀 潔	荘口 博雄	高月 清	西山 忠男	
	古川 憲治	松尾 哲夫	宮本 光雄	森田 敏子	山本 哲郎	良永彌太郎		
10万円	荒木 尚	池上 知顯	紙谷 正夫	川島 文憲	川原顕磨呂	浄住 護雄	合屋周次郎	
	小林 康夫	杉井 篤	高木 克公	田代 昭	谷井 博美	前田 浩	三池 亮次	
	医療法人邦真会							
5万円	赤井 一郎	秋吉 卓	浅見 幸雄	安倍紀一郎	阿部 浩	荒牧 陸雄	有馬 英俊	
	井上 高宏	今福 公明	今村 隆寿	岩井 善太	上田 澄広	上野 剛彦	上畠 一也	
	上村 直己	内川 澄雄	大渡 崇夫	大林 和南	小川 芳弘	小貫 治朗	金丸 忠義	
	北川 浩治	黒澤 和	坂本 範行	杉谷 賢一	園田 寛	田口 宏昭	田中 雄次	
	田中 嘉行	常岡 晃	釣 慎一	富吉 勝美	中野 栄二	西野 宏	橋口 輝英	
	福田 宰	福田 昇八	藤井 良彦	藤本 正子	藤芳 素生	堀畑 正臣	松田 一郎	
	丸山 定巳	溝上 章志	三井 宜之	森 宏	山内 典博	矢永 晶	山口 尚樹	
	山口 守人	吉田 正貴	吉玉国二郎	和田 孝浩	渡邊 亮	渡辺 浩志	渡邊 博史	
5万円未満	青山 寛六	安東由喜雄	幾島 正起	池間 啓人	稲生 邦博	入江 明德	岩切 幸二	
	牛島眞理子	内野 政美	榮留 隆	江島 宏良	大津 雅亮	大林 光念	緒方 秀俊	
	岡村美智子	甲斐 能成	片淵 秀隆	河野 信二	川村 順一	魏 長年	木村 俊夫	
	熊川啓之助	倉原 邦彦	興梠 康蔵	小園 裕三	小松 俊文	坂口 天章	佐々木 理	
	佐藤 正一	塩見 祐一	瀬戸崎正洋	高松 哲生	竹下 次郎	趙 華安	永島田 登	
	永田 敦	永田 千鶴	長友 猛	中山 禮吉	那須 幸雄	西川 盛雄	原田 和明	
	東村 一東	藤田 基明	本田みよ子	本名 和夫	松崎 幸忠	宮園 蒸治	宮成 昭一	
	八淵 厚生	山崎 正博	山下 智文	横堀 博好	分山 和男			

2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。)

安部 忠美	天野 好雄	荒木不次男	石堂宏一郎	石橋 卓雄	一宮 博	出田 透	伊東 鎮雄
伊藤 隆明	乾 誠治	岩永 泰樹	岩波 隆	上田 公代	上野 一憲	上野 眞也	上野 崇寿
魚津 郁夫	受島 敦美	大城敬二郎	大迫 靖雄	大塚 雅巳	大淵 慶史	小笠原秀男	緒方夕子
岡部 勉	小川 尚	小川 竜二	奥田 襄介	小田 修一	海部 静男	海陸 伸久	加藤 哲朗
門久 剛	川浦 一晃	川幡 華子	北山 洋一	城戸 孝幸	金城 正明	金原 理	草野 俊子
草野 元延	楠野 賢二	熊谷 真理	糸 和彦	桑 昭苑	倉重 景二	黒木 宏	桑島 志哲
桑原 莞爾	神崎 正郁	郷森 邦子	興梠 知子	古賀 周一	小杉 信行	古波倉正照	小山 一幸
阪口 薫雄	坂田 親信	坂元 正博	坂本 守康	櫻田 一之	佐々木 裕	佐嶋 重道	貞永 和宣
貞本 市和	佐藤 隆	猿山 博英	重石 光弘	重森 恵	篠原 良平	島田 秀昭	嶋田 真澄
下川 忠治	首藤 基澄	梶村 保則	杉元 年久	鈴木 敦巳	宋 文杰	高橋 誠夫	高橋 隆雄
高原 弘文	田中 忠彦	田中 文博	田中 理恵	玉置 則裕	田村 実	月岡 信隆	椿 光夫
堂園 弘光	東福 和久	轟木 休五	富田 博明	友重 順子	永井 英夫	中野 稔浩	仲間 正人
中村 直美	成迫 隆一	仁木 治仁	西川 秀雄	西中村隆一	西村 孝則	西山 秀俊	野木 浩一
葉石 眞治	橋本サツ工	馬場 秀夫	馬場 史伸	早田 義徳	原 繁實	原田 信志	原田 博之
日高由美子	廣木 英晴	廣田 孝史	日和田伸一	福田 泰英	福田 洋子	藤井 淳浩	藤河 次宏
藤野 章治	別府トシ子	細山田康弘	堀江 潤一	堀端 洋子	本田 優子	前田 耕治	前田美和子
前山 昌男	松浦 孝則	松垣 裕	松下 裕	松田千代子	松田 義美	松本 繁二	松元 尚大
眞弓 康宏	三澤 公子	溝上 修	宮崎 徹夫	向江富士夫	向田 芳朗	村上 昭利	村田 正文
村山 伸樹	餅原 正浩	本川健四郎	森 邦夫	森 正敬	森 正人	森 眞理子	森 光昭
森岡 亨	森田 寿裕	森山都留男	矢澤 吉邦	矢嶋 哲	安野 浩行	山川 至誠	山崎 広道
山崎 雅彦	山下 勉	山田 康夫	山之内静夫	山本 義明	横井 裕之	吉田 伸一	吉田 稔
米村 健一	若松 伸一	渡邊 一徳	渡邊 三治	渡邊 亮一	綿巻 進也	堤化学株式会社	

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

個人269名、法人・団体等3社

編集後記

「知事」が話題になることが多い、宮崎県の東国原知事、大阪の橋下知事（「ハシシタ」と思い込んでいました）。「事を知る」という言葉が「地方行政の統轄」役職になるのも不思議だな、と。語源はサンスクリット語の漢訳で中国の寺院での役職名の一つだったよう。聞きづつだが、「事務のトップ」という意味が強いらしい。この号が発刊される頃には、我が熊本県知事も決まっているだろう。果たして知名度優先か？政策能力優先か？どちらにしても官庁での「事務・総務能力」が、まずは問われるだろう。

「企画」という業務に従事している我々だが、やはり「事務能力」が肝要だ！と感じている。その「枠」の中でいかに発信するか！とはいえ、時には、枠を“とっぴがして”の企画も必要では。この「熊通」でも、枠を越えた挑戦もしなきゃ！と反省している熊大・3年目の春です。

2年間、表紙素材をご提供いただいた本学OBでアーティストの中村靖浩氏に感謝申し上げます。
有難うございました。

(西村 兆司)

編集委員

糸 和彦 発生医学研究センター

田中尚人 大学院自然科学研究科

田村耕一 法学部

西村兆司 広報戦略主幹



そして、彼は世界のARITAになった。

数千年の長きにわたり、人類を苦しめ続けた天然痘は、
1980年、感染症の中で唯一、根絶宣言がなされた。
宗教上の理由から根絶は無理と言われていたインドで、
ゲリラが跋扈する政情不安のアフリカで、
次々と感染を封じ込め、
「世界の奇跡」と讃えられた偉業。
それを達成したのは、本学医学部の前身・熊本医科大学出身の蟻田功博士。
その名前は、世界のARITAとして、人類の歴史に刻まれるに違いない。



蟻田功博士

元世界保健機関 (WHO) 世界天然痘根絶対策本部長。WHO 退職後、(財)国際保健医療交流センター (ACIH) の理事長 (現・名誉理事長) として、ポリオの撲滅にまい進している。

熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム

五高記念館は国の重要文化財に指定され、本学のシンボルとなっています。このほかにも、重要文化財等の赤煉瓦建物群や登録文化財となっている建物、また、他のキャンパスで保存・活用されている施設があり、これらの建物・施設・資料等から成る熊本大学博物館の実現を目指しています。その第一歩として、平成18年度から五高記念館の整備に着手し、高等教育研究資料館としての個性を持たせ、ラフカディオ・ハーンや夏目漱石など、いくつかのテーマごとに史・資料の整備を進め、展示・公開しています。



[開]10:00~16:00(入館は~15:30) [休]火曜、土・日曜を除く祝日 入場無料 TEL: 096-342-2050
HP <http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp/>